

保育・初等教育を学ぶ大学生の地域別特性

柳原高文*

(名寄市立大学保健福祉学部社会保育学科)

キーワード：生活科、保育内容（環境）

はじめに

筆者は2016年度まで、非常勤講師として関東圏で保育内容（環境）、生活科などの講義を行っていた。その初回の授業で自分の好きな物、将来暮らしたい場所などをクラスメイトと語り合い、わかち合うことを目的としたアイスブレイクを行っていた。本年度より北海道の名寄市立大学の所属となり、それらの内容が関東圏の学生と北海道の学生とに特性の違いがあるのかをアンケート内容から調べることにした。

方法

2016年度、2017年度に、保育内容（環境）、生活科関連の科目を受講する大学1年生、2年生676名のアンケート調査から共通する内容5項目の推考を行った。対象大学生は、次の関東圏の3大学590名と名寄市立大学86名であり、将来暮らしたい場所の「都会」とは主に政令指定都市、地下街などが発展し交通の便利な場所を示し、北海道であれば札幌市がそれに当たることを告げた。「地方都市」とは程良く人口が集まり大型ショッピングモールなどがあり生活は便利だが人口が集中していない街を示し、北海道の名寄市もそれに当たることを告げ、「田舎」とはそれ以外の場所で自然豊かな過疎地から日常生活の買い物に不便を感じない街などであることを告げた。

1. 埼玉学園大学 人間学部子ども発達学科 88 名

埼玉県川口市に位置し、最寄り駅が JR 武蔵野線東浦和駅であることから、埼玉県内、武蔵野線沿線の東京都、千葉県からの学生が多く、少数ではあるが北海道から沖縄まで広く全国から学生が集まっている。埼玉都民という単語があるように、仕事は東京都で睡眠は埼玉県でという住民が多い。学生の多くはそのような家庭で、開発された住宅地と地域文化の残る地元と共存した風土の中で育ってきた。キャンパスは狭いが、植木の町安行に近いことから中庭には庭木が多量に植栽されている。校門周辺のソメイヨシノが美しく、新学期には満開のサクラが新入生を迎える。

2. 昭和女子大学 人間社会学部初等教育学科 95 名

東京都世田谷区に位置し最寄り駅が東急田園都市線三軒茶屋駅であることから、東京都を中心に神奈川県、埼玉県、千葉県の学生が多く、地方からの学生も少数在学する。生まれながらの都会っ子や、近隣の県から2時間近くの通学時間をかけて自宅通学する学生が多いが、日本全国から上京し一人暮らしをしている学生もいる。大学が渋谷近隣にあることから、学生の生活は首都圏中心である。キャンパスの敷地は広く、昔から樹木を大切にしてきたことから大木を中心に植栽計画がなされ程よく整備されている。季節ごとに花を咲かせる草花も多く、キャンパスの自然環境は優れている。特に新学期には多種のサクラが咲き誇り美しいキャンパスになる。

3. 白鷗大学 教育学部発達学科 407 名

栃木県小山市に位置し、最寄り駅が JR 小山駅であることから、栃木県を中心に北関東の学生が多い。他県

* 責任著者

柳原高文 salix@nayoro.ac.jp

では福島県が最も多く、山形県、岩手県、秋田県などの学生も在籍する。JR を利用すると1時間強で首都圏に行ける場所だが、学生の生活は小山市中心であり都会の影響を受けていない学生が多い。自然体験を幼い頃から行ってきており、地方文化が大切にされている風土で育った学生が多い。キャンパスは広大ではないが樹齢40年前後の樹木に囲まれ、程良い気持ちの安らぐ空間が作り出されている。キャンパスの近隣に思川が流れていることから、春にはオモイガワザクラの並木道に多くの人が集まる。キャンパスにもオモイガワザクラを始め多種類のサクラが植えられており、新学期は次々にサクラの開花が楽しめる。

結果と推考

大学生のアンケート結果は次のようになった。

設問1 森・川・海のなかで一番好きな場所はどこですか？

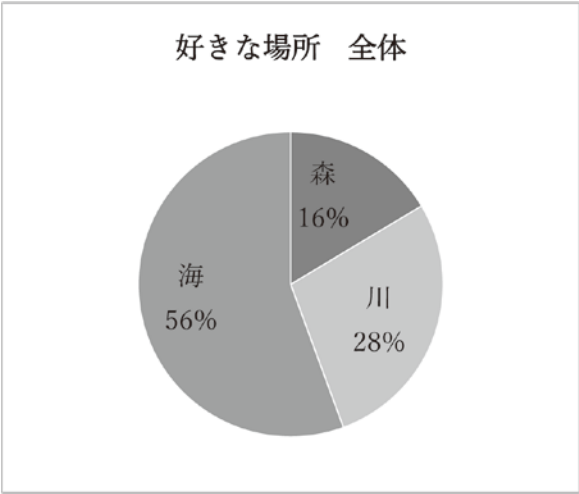


図1 好きな場所全体グラフ

表1 好きな場所全体

	人数(人)	割合 (%)
森	111	16.4
川	189	28.0
海	376	55.6
合計	676	100.0

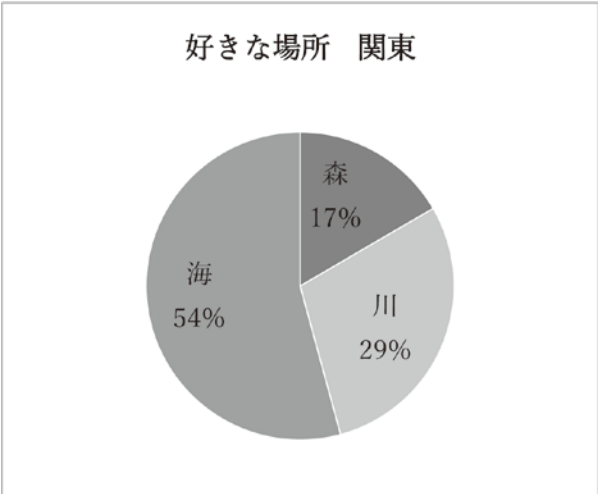


図2 好きな場所関東グラフ

表2 好きな場所関東

	人数(人)	割合 (%)
森	98	16.6
川	172	29.2
海	320	54.2
合計	590	100.0

全体、関東ともに海が好きな学生が半数を少し超え、川、森の順になっている。

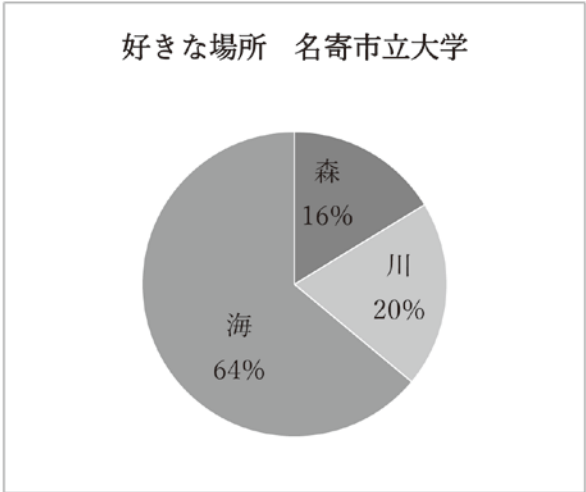


図3 好きな場所名寄グラフ

表3 好きな場所名寄市立大学

	人数(人)	割合(%)
森	14	16.3
川	17	19.8
海	55	64.0
合計	86	100.0

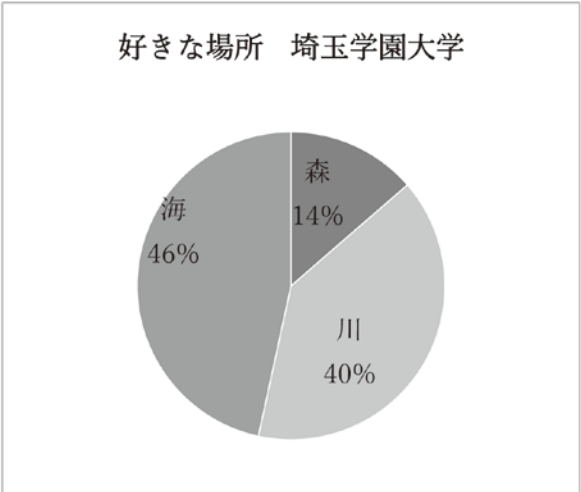


図4 好きな場所埼学グラフ

表4 好きな場所埼玉学園大学

	人数(人)	割合(%)
森	12	13.6
川	35	39.8
海	41	46.6
合計	88	100.0

名寄市立大学の学生は、他大学の学生よりも海が好きな割合が高く、川が好きな割合が他大学よりも低い。森が好きな割合は他大学と大きく変わらない。反面、埼玉学園大学の学生の海が好きな割合は他大学よりも低く、キャンパスの近隣を大河荒川が流れていることから、川が好きな割合が他大学よりも高いと推考できる。

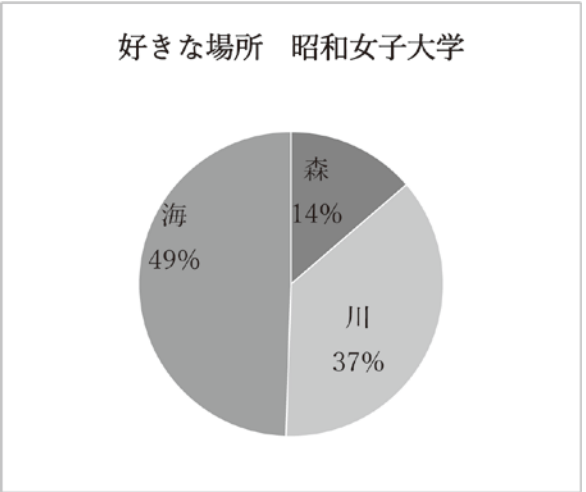


図5 好きな場所昭和女子大学グラフ

表5 好きな場所昭和女子大学

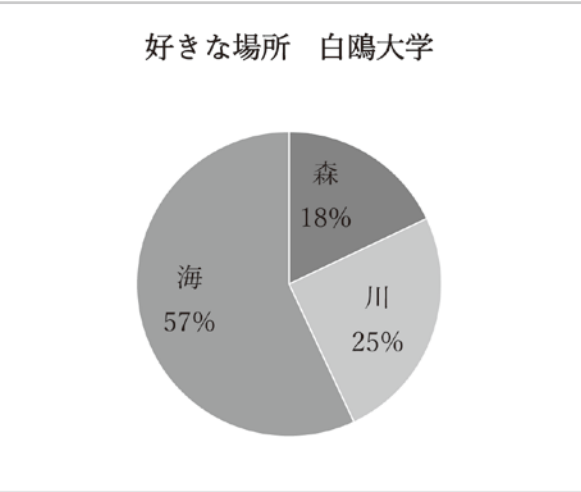


図6 好きな場所白鷗大学グラフ

表6 好きな場所白鷗大学

	人数(人)	割合(%)
森	13	13.7
川	35	36.8
海	47	49.5
合計	95	100.0

	人数(人)	割合(%)
森	73	17.9
川	102	25.1
海	232	57.0
合計	407	100.0

昭和女子大学の学生の川が好きな割合は、埼玉学園大学の学生ほど高くないが他大学よりも高く、森や海が好きな学生もバランス良く形成されている。東京という地区が森、川、海全てに1時間もあれば行けることからこの結果になっていると推考できる。白鷗大学の学生の森が好きな割合は他大学よりも高く、奥日光や那須高原を訪れた経験が森の良さを教えてくれたと推考できる。川の好きな割合は全体とほぼ同じ割合であるが海が好きな割合が他大学よりも少し高い。

設問2 将来暮らしたい場所は、田舎・地方都市・都会どこですか？

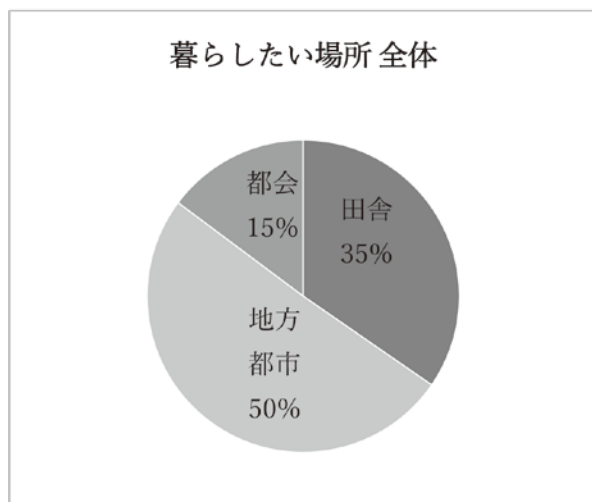


図7 暮らしたい場所全体グラフ

表7 暮らしたい場所全体

	人数(人)	割合(%)
田舎	234	34.6
地方都市	342	50.6
都会	100	14.8
合計	676	100.0

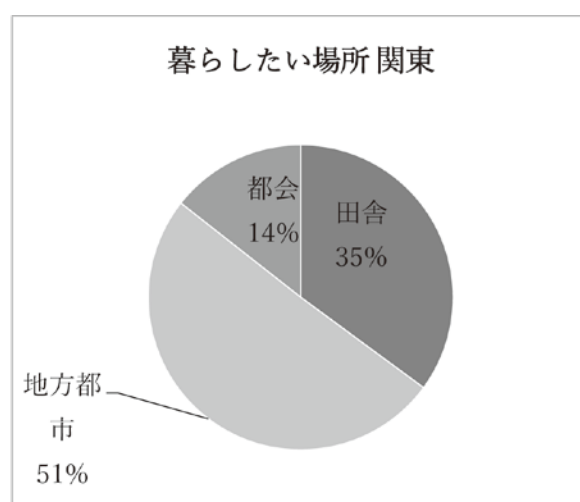


図8 暮らしたい場所関東グラフ

表8 暮らしたい場所関東

	人数(人)	割合(%)
田舎	207	35.1
地方都市	298	50.5
都会	85	14.4
合計	590	100.0

全体、関東の学生の将来暮らしたい場所は、約半数が地方都市で、田舎で暮らしたいは約35%、都会で暮らしたい学生は15%弱であった。全体と関東との違いはあまり見られない。

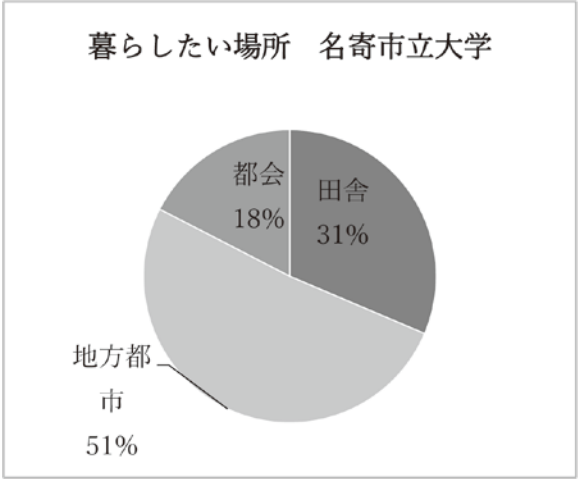


図9 暮らしたい場所名寄市立大学グラフ

表9 暮らしたい場所名寄市立大学

	人数(人)	割合(%)
田舎	27	31.4
地方都市	44	51.2
都会	15	17.4
合計	86	100.0

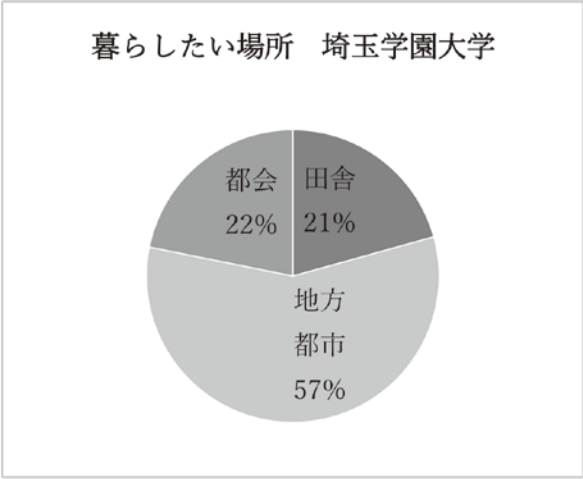


図10 暮らしたい場所埼玉学園大学グラフ

表10 暮らしたい場所埼玉学園大学

	人数(人)	割合(%)
田舎	18	20.7
地方都市	50	57.5
都会	19	21.8
合計	87	100.0

名寄市立大学の学生の将来暮らしたい場所は、全体よりも少し地方都市や都会が高く、田舎が低い。埼玉学園大学では、地方都市が全体よりも高く、田舎はやや低い。都会との接点が多いことから将来都会に住みたい学生もやや多いと推考できる。

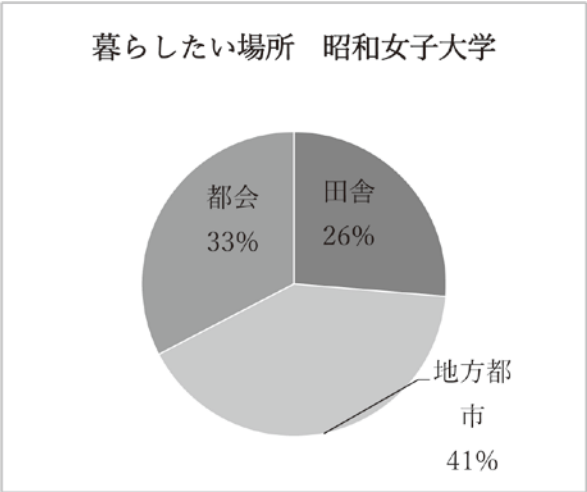


図11 暮らしたい場所昭和女子大学グラフ

表11 暮らしたい場所昭和女子大学

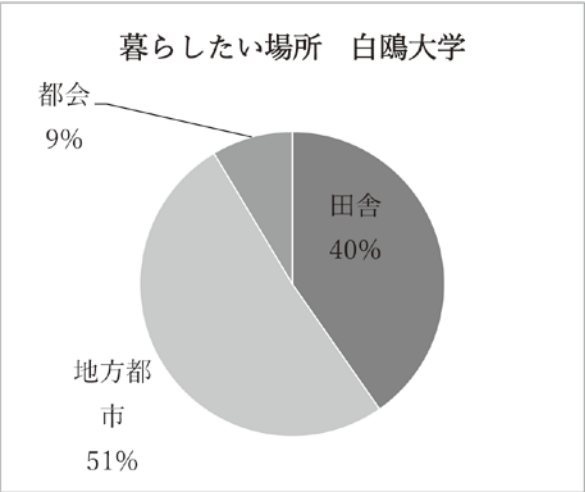


図12 暮らしたい場所白鷗大学グラフ

表12 暮らしたい場所白鷗大学

	人数(人)	割合(%)
田舎	25	26.3
地方都市	39	41.1
都会	31	32.6
合計	95	100.0

	人数(人)	割合(%)
田舎	164	40.3
地方都市	208	51.1
都会	35	8.6
合計	407	100.0

都会で暮らしている学生が多い、昭和女子大学の学生の将来暮らしたい場所は、都会が高く地方都市が他大学よりも10%以上低い。その反面、将来田舎で暮らしたい学生も約26%おり、都会の生活に疲れ田舎でのんびり暮らしたい願望があるからと推考できる。確かに、ほぼ毎日電車が遅延し車内も満員でストレスがたまる通学を強いられていた。白鷗大学の学生の田舎の割合は他大学の学生よりもかなり高く、反面都会が目立って低い。これは、北関東や南東北の出身の学生が多く、元々都会思考の学生は都内または都内周辺の大学に進学し、都会と程近い地方都市である小山市を選んだ学生たちが集まっているからではないかと推考できる。

設問3 「直ぐ」とは、5分以内・10分以内・30分以内のどれですか？

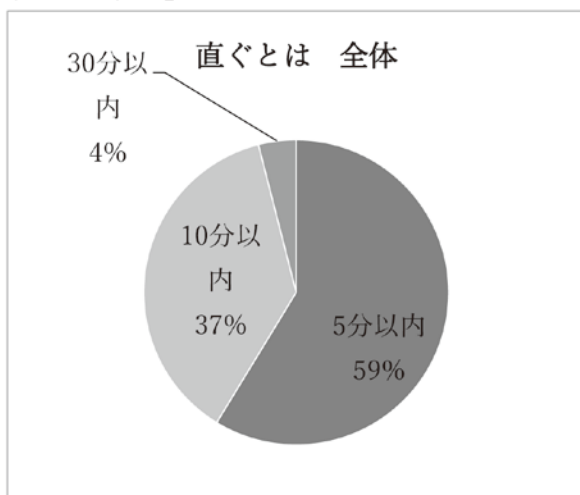


図13 「直ぐ」とは全体グラフ

表13 「直ぐ」とは全体

	人数(人)	割合(%)
5分以内	397	58.7
10分以内	252	37.3
30分以内	27	4.0
合計	676	100.0

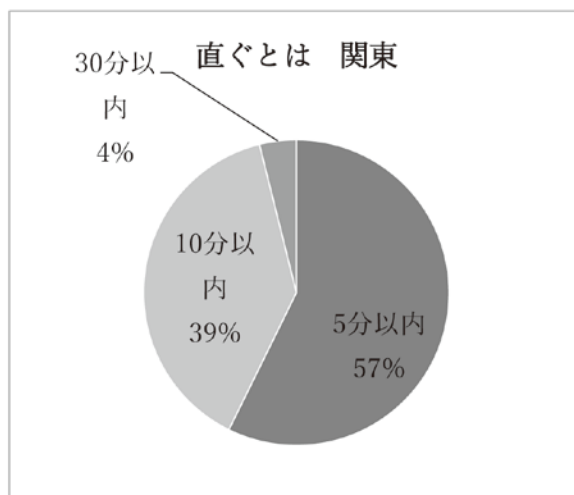


図14 「直ぐ」とは関東グラフ

表14 「直ぐ」とは関東

	人数(人)	割合(%)
5分以内	338	57.3
10分以内	229	38.8
30分以内	23	3.9
合計	590	100.0

全体、関東の学生の「直ぐ」は5分以内が最も多く約58%であり、30分以内と答えた学生は約4%であった。

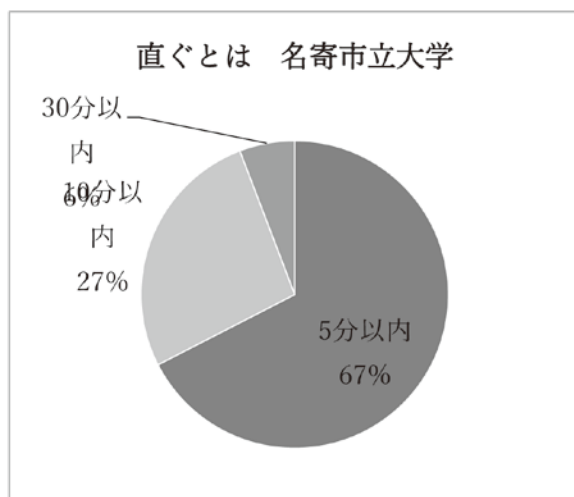


図 15 「直ぐ」とは名寄市立大学グラフ

表 15 「直ぐ」とは名寄市立大学

	人数(人)	割合 (%)
5分以内	58	67.5
10分以内	23	26.7
30分以内	5	5.8
合計	86	100.0

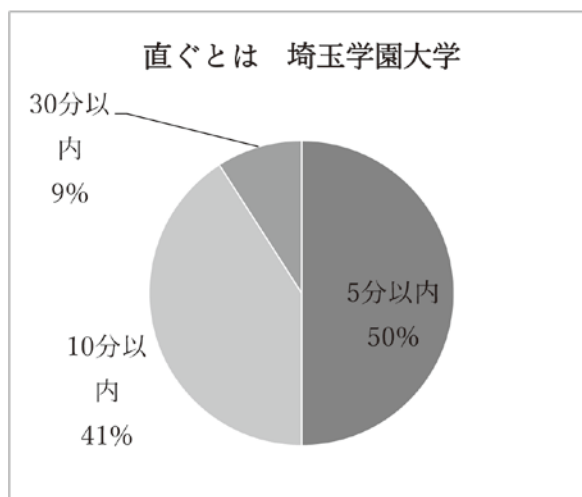


図 16 「直ぐ」とは埼玉学園大学グラフ

表 16 「直ぐ」とは埼玉学園大学

	人数(人)	割合 (%)
5分以内	44	50.0
10分以内	36	40.9
30分以内	8	9.1
合計	88	100.0

名寄市立大学の学生の「直ぐ」は5分以内と答えた割合は他大学よりも高い。反面、埼玉学園大学の学生の5分以内の割合は他大学よりも低く、10分以内の割合が高い。他の路線の遅延の影響を受ける武蔵野線や、最寄駅から利用するスクールバスも交通渋滞による遅延、ホールのエレベーターは何回か待たなくては乗れないなど、焦ってもどうにもならない学生の心理から時間に対して神経質にならないようになってきていると推考できる。

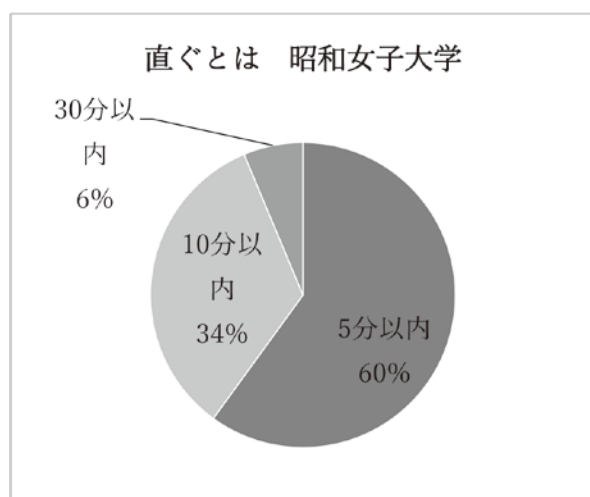


図 17 「直ぐ」とは昭和女子大学グラフ

表 17 「直ぐ」とは昭和女子大学

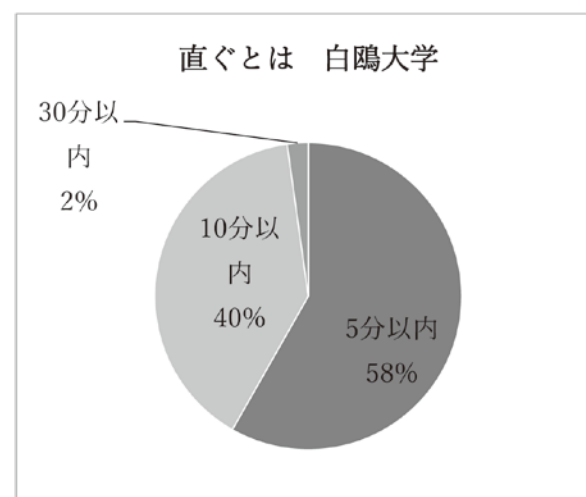


図 18 「直ぐ」とは白鷗大学グラフ

表 18 「直ぐ」とは白鷗大学

	人数(人)	割合(%)
5分以内	57	60.0
10分以内	32	33.7
30分以内	6	6.3
合計	95	100.0

	人数(人)	割合(%)
5分以内	237	58.2
10分以内	161	39.6
30分以内	9	2.2
合計	407	100.0

昭和女子大学の学生の「直ぐ」の割合は全体、関東の割合と似ており大きな特性は見られないが、30分以内と答えた学生がやや多い。生活態度に厳しい女子大学ということから、遅刻も20分を超すと欠席になる決まりで、始業の鐘も5分前に予鐘が鳴る。これに対して、前設問で示した過酷な通学から時間に縛られる生活の反発と推考できる。白鷗大学の「直ぐ」は、5分～10分以内と考える学生が97.8%いる。遠方からJR宇都宮線を利用している学生が多いことから、利用できる電車が限られ焦っても調度の乗り継ぎがないことや乗り継ぎを1本逃すととんでもなく時間を費やしてしまうことから、慌てず遅れずの時間感覚が身についていると推考できる。

設問4 好きな植物はなんですか？

表19 好きな植物全体上位10

	人数(人)	割合(%)
1 ヒマワリ	146	21.5
2 サクラ	120	17.7
3 キンモクセイ	36	5.3
4 タンポポ	32	4.7
5 チューリップ	28	4.1
6 花	26	3.8
7 サボテン	24	3.5
8 コスモス	20	2.9
9 アサガオ	15	2.2
10 カスミソウ	14	2.1
総数	679	

表20 好きな植物関東上位10

	人数(人)	割合(%)
1 ヒマワリ	111	18.7
2 サクラ	104	17.5
3 キンモクセイ	33	5.6
4 タンポポ	30	5.1
5 花	23	3.9
6 チューリップ	21	3.5
7 サボテン	18	3.0
8 コスモス	16	2.7
9 アサガオ	15	2.5
10 カスミソウ	12	2.0
総数	593	

全体の学生の好きな植物はヒマワリが多く、次はサクラが多い。3位以下は多種な植物だがキンモクセイやタンポポなどが好まれている。関東の学生のヒマワリ、サクラの割合は拮抗しているがサクラの約18%は他大学とほぼ同じである。

表21 好きな植物名寄市立大学上位5

	人数(人)	割合(%)
1 サクラ	16	18.6
2 ヒマワリ	14	16.3
3 チューリップ	7	8.1
4 サボテン	5	5.8
4 花	5	5.8
総数	86	

表22 好きな植物埼玉学園大学上位5

	人数(人)	割合(%)
1 ヒマワリ	24	27.3
2 サクラ	17	19.3
3 キンモクセイ	6	6.8
4 タンポポ	3	3.4
4 チューリップ	3	3.4
総数	88	

名寄市立大学の学生の好きな植物は、ヒマワリよりもサクラが多いが割合では約 18%と他大学とほぼ同じである。反面、埼玉学園大学の学生の好きなヒマワリの割合は他大学の学生の割合よりも高く、サクラの好きな割合も他大学よりも高い。

表 23 好きな植物昭和女子大学上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 サクラ	17	17.9
2 ヒマワリ	16	16.8
3 キンモクセイ	5	5.3
3 チューリップ	5	5.3
3 サボテン	5	5.3
総数	95	

表 24 好きな植物白鷗大学上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 ヒマワリ	92	22.4
2 サクラ	70	17.1
3 タンポポ	25	6.1
4 キンモクセイ	22	5.4
5 花	18	4.4
総数	410	

昭和女子大学の学生のサクラ、ヒマワリの好きな割合はあまり変わらないが校章のデザインがサクラであることからサクラが好きな学生がやや多い。白鷗大学の学生はヒマワリが高くサクラは他大学とほぼ同じ割合である。白鷗大学の近隣の思川の河川敷にあるオモイガワザクラの並木道は有名で、開花時には多くの市民が訪れる。筆者も 2 年生の生活科教育法の授業の初回にオモイガワザクラの花見を行うが、学生のほとんどは「初めてオモイガワザクラを見た。」と話し、通常の学生生活でオモイガワザクラの開花に気がつかないことを教えてくれた。このアンケートを回答した学生はまだ 1 年生で、筆者のオモイガワザクラの解説は聞いていない。2 年生にアンケートを実施したら少しサクラの回答の数値が上がったと推考できる。

設問 5 好きな動物はなんですか？

表 25 好きな動物全体上位 10

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	218	32.1
2 ネコ	172	25.3
3 キリン	26	3.8
4 ウサギ	25	3.7
4 パンダ	25	3.7
6 ペンギン	14	2.1
7 リス	13	1.9
8 ハムスター	10	1.5
9 ライオン	9	1.3
10 アルパカ	7	1.0
総数	679	

表 26 好きな動物関東上位 10

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	203	34.2
2 ネコ	150	25.3
3 パンダ	23	3.9
4 ウサギ	21	3.5
5 ペンギン	13	2.2
6 キリン	21	3.5
7 リス	9	1.5
8 ハムスター	8	1.3
8 ハリネズミ	8	1.3
10 ライオン	7	1.2
総数	593	

全体、関東の学生の好きな動物はイヌとネコが多くを占め、3 位以下は多種多様である。

表 27 好きな動物名寄市立大学上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 ネコ	22	25.6
2 イヌ	15	17.4
3 ウサギ	4	4.7
3 レッサーパンダ	4	4.7
5 リス	3	3.5
総数	86	

表 28 好きな動物埼玉学園大学上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	30	34.1
2 ネコ	20	22.7
3 ウサギ	5	5.7
4 パンダ	4	4.5
5 ライオン	3	3.4
総数	88	

全体的にはイヌが好きな学生がネコよりも多いが、名寄市立大学の学生はネコが1位という特性を出している。しかし、約25%と割合的には他大学と同じであり、全体的に約30%以上の学生が好きなイヌの割合が約17%と極端に低いことがわかる。回答する動物は1種類ということから、本当はイヌもネコも好きな学生が多くいたかも知れない。また、他大学では名前が出てこなかったレッサーパンダが多かったことは近隣の旭山動物園の影響と推考できる。

表 29 好きな動物昭和女子大学上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	38	40.0
2 ネコ	15	15.8
3 パンダ	4	4.2
4 ウサギ	3	3.2
4 リス	3	3.2
総数	95	

表 30 好きな動物白鷗大学上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	135	32.9
2 ネコ	115	28.0
3 パンダ	15	3.7
4 ウサギ	13	3.2
5 ペンギン	9	2.2
総数	410	

昭和女子大学の学生のイヌが好きな割合は40%と最も高く、ネコが好きな割合が他大学よりもやや低い。これは、ストレスの多い都会暮らしでは、愛玩用として部屋でイヌを飼うことがブームになっている都会現象と推考できる。白鷗大学の好きな動物の割合は全体とほぼ同じで目立った特性は見られない。

将来暮らしたい場所による結果と推考

大学別ではなく、将来暮らしたい場所で分けた3グループと全体と対比させてみた。

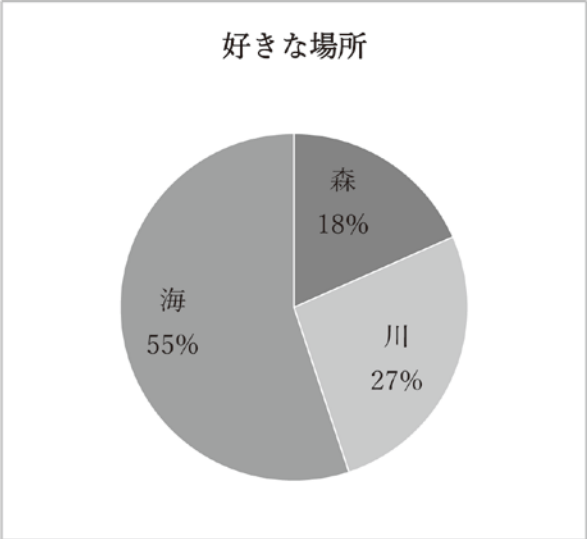


図 19 田舎で暮らしたい学生の好きな場所グラフ

表 31 田舎で暮らしたい学生の好きな場所

	人数(人)	割合 (%)
森	43	18.4
川	62	26.5
海	129	55.1
合計	234	100.0

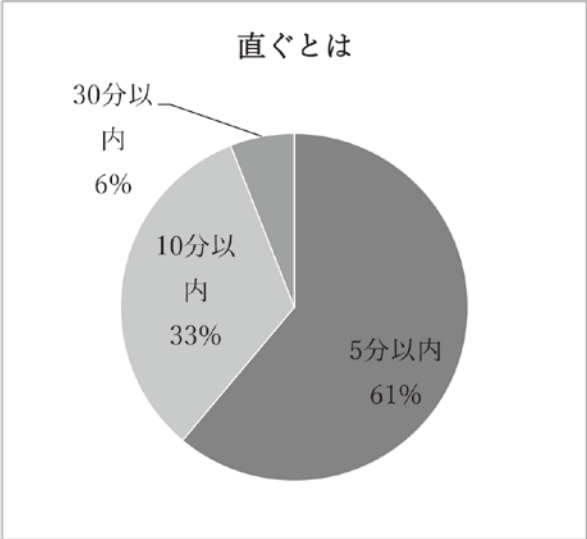


図 20 田舎で暮らしたい学生の「直ぐ」とはグラフ

表 32 田舎で暮らしたい学生の「直ぐ」とは

	人数(人)	割合 (%)
5分以内	143	61.1
10分以内	77	32.9
30分以内	14	6.0
合計	234	100.0

将来田舎で暮らしたい学生の好きな場所は、図 7、表 7 とほぼ同じだが、森が好きな学生が他の場所で暮らしたい学生よりも少し高い。「直ぐ」の時間の割合は全体とほぼ同じだが 5 分以内がやや高い。

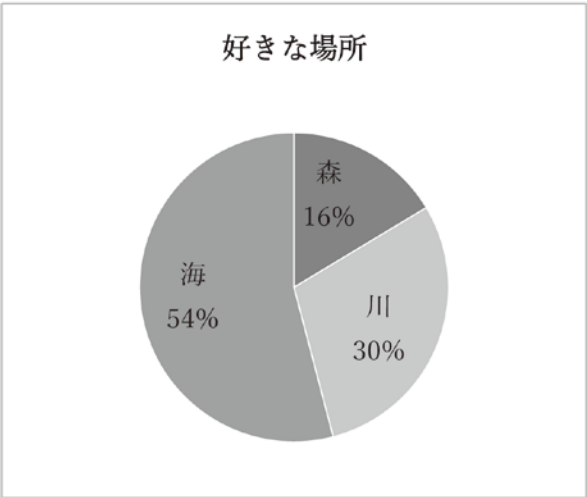


図 21 地方都市で暮らしたい学生の好きな場所グラフ

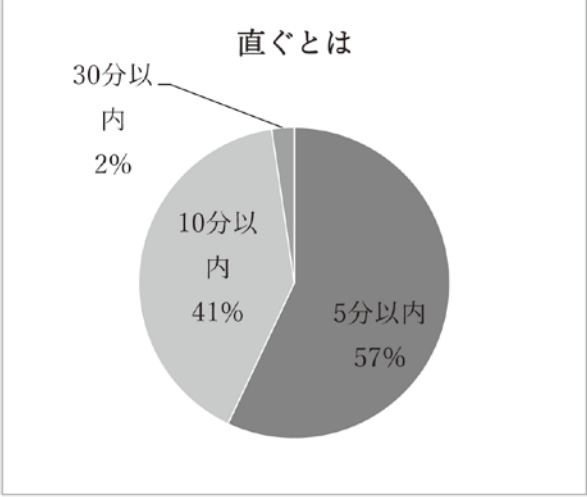


図 22 地方都市で暮らしたい学生の「直ぐ」とはグラフ

表 33 地方都市で暮らしたい学生の好きな場所

	人数(人)	割合(%)
森	56	16.4
川	101	29.5
海	185	54.1
合計	342	100.0

将来地方都市で暮らしたい学生の好きな場所の割合は、全体とほぼ同じで特性が見られなかった。「直ぐ」の割合は30分以内が少ない。

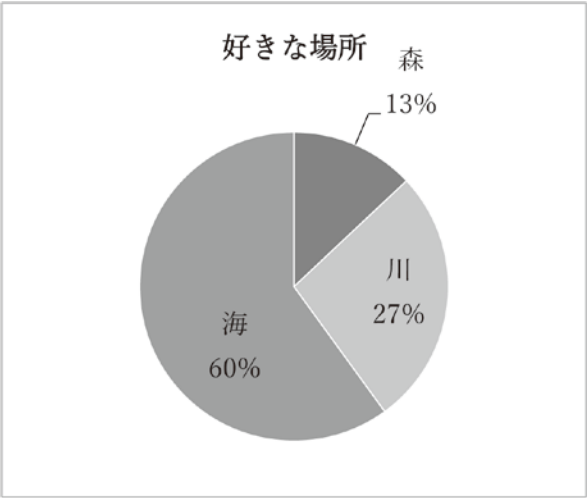


図 23 都会で暮らしたい学生の好きな場所グラフ

表 35 都会で暮らしたい学生の好きな場所

	人数(人)	割合(%)
森	13	13.0
川	27	27.0
海	60	60.0
合計	100	100.0

将来都会で暮らしたい学生の好きな場所は、全体とほぼ同じだが森が少なく、海が多いことがわかる。「直ぐ」の割合は30分以内が少し高い。

表 37 田舎で暮らしたい学生の好きな植物上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 ヒマワリ	49	20.9
2 サクラ	42	17.9
3 タンポポ	14	6.0
4 チューリップ	12	9.5
5 サボテン	9	3.8
総数	126	

表 34 地方都市で暮らしたい学生「直ぐ」とは

	人数(人)	割合(%)
5分以内	195	57.1
10分以内	139	40.6
30分以内	8	2.3
合計	342	100.0

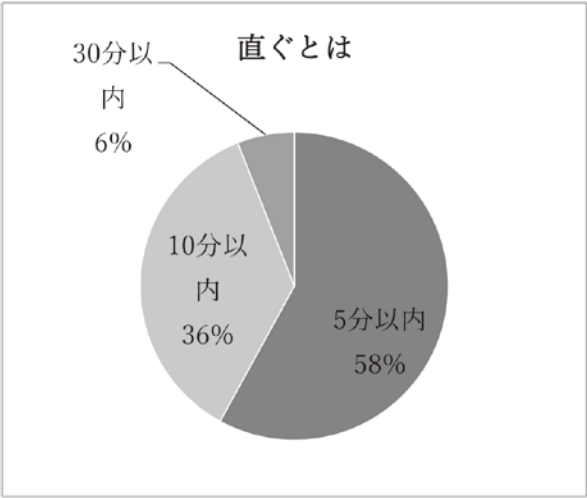


図 24 都会で暮らしたい学生「の直ぐ」とはグラフ

表 36 都会で暮らしたい学生の「直ぐ」とは

	人数(人)	割合(%)
5分以内	58	58.0
10分以内	36	36.0
30分以内	6	6.0
合計	100	100.0

表 38 田舎で暮らしたい学生の好きな動物上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	73	31.2
2 ネコ	53	22.6
3 ウサギ	10	4.3
4 ライオン	6	2.6
5 パンダ	5	2.1
総数	147	

将来田舎で暮らしたい学生の好きな植物は、全体とほぼ同じで特性は見られなかった。好きな動物についても全体とほぼ同じで特性は見られない。

表 39 地方都市で暮らしたい学生の好きな植物上位 5 表 40 地方都市で暮らしたい学生の好きな動物上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 ヒマワリ	76	22.2
2 サクラ	65	19.0
3 キンモクセイ	21	6.1
4 サボテン	14	4.1
4 タンポポ	14	4.1
総数	190	

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	102	29.8
2 ネコ	94	27.5
3 パンダ	16	4.7
4 ウサギ	13	3.8
4 ハムスター	5	1.5
総数	230	

将来地方都市で暮らしたい学生の好きな植物は、全体とほぼ同じで特性は見られない。好きな動物については全体と比べイヌの割合が少し低く、ネコの割合が少し高かったが割合的に目立つものではない。

表 41 都会で暮らしたい学生好きな植物上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 ヒマワリ	16	16.0
2 サクラ	13	13.0
3 キンモクセイ	8	8.0
3 花	8	8.0
5 チューリップ	5	5.0
総数	50	

表 42 都会で暮らしたい学生好きな動物上位 5

	人数(人)	割合(%)
1 イヌ	44	44.0
2 ネコ	22	22.0
3 パンダ	4	4.0
4 キリン	3	3.0
4 リス	3	3.0
総数	76	

将来都会で暮らしたい学生の好きな植物は、ヒマワリ、サクラが好きな学生の割合が低く多様性が目立った。好きな動物については全体と比べイヌの割合が少し高くやはり都会独特の現象が現れている。

まとめ

将来暮らしたい場所から推考した、「好きな場所」「直ぐとは」「好きな植物」「好きな動物」は全体の数値とほぼ同じであったことから、学生の特性は大学の地域にあるのではないかと推考できる。そこで、名寄市立大学の学生と関東の学生の好きなものを対比してみた。

1) 好きな場所

森が好きの割合は関東 16.6%、名寄市立大学 16.3%とほぼ同じであるが、川が好きの割合は関東 29.2%、名寄市立大学 19.8%と関東の学生の方が約 10%高い。名寄市は、海まで約 250KM の距離ダムのないカヌーイスト憧れの川である北海道の代表する天塩川が流れ、名寄川も美しく釣りをはじめ川遊びに最適である。1 年生の体育の授業で川遊びをすることがあるが、日常の大学生活では川とは無縁であり、雪解けの際の危険な水量、豪雨の後の危険性など幼い頃から川で遊ぶという習慣が少ないからと推考できる。反面、海が好きの割合は関東 54.2%、名寄市立大学 64.0%と約 10%海が好きな学生が多い。当然だが北海道は海に囲まれ魚介類の海洋資源にも恵まれている。晴れた日の夏の海は美しいブルーになり、冬には流氷も着岸する。これらのことから海に親しみをもつと推考できる。

2) 将来暮らしたい場所

田舎で暮らしたい学生の割合は関東 35.1%、名寄市立大学 31.4%と関東の学生の方が約 4%田舎で暮らしたい学生が多い。関東の田舎は車で少し走ると地方都市に出るが、北海道の場合、地方都市まで遠隔な田舎も多いことや冬場の降雪などの違いから田舎の不便さを感じている学生が多いためと推考できる。地方都市で暮らしたい学生の割合は関東 50.5%、名寄市立大学 51.2%とこちらは数値にほとんど差がない。都会で暮らしたい学生の割合は関東 14.4%、名寄市立大学 17.4%と 3%名寄市立大学の学生の方が都会志向である。これは、北海道にとっての都会札幌は、自然と融合した理想の都会ということが影響していると推考できる。

3) 直ぐとは

5 分以内の割合は関東 57.3%、名寄市立大学 67.5%と 10.2%名寄市立大学の学生の数値が高い。半面、10 分以内の割合は関東 38.8%、名寄市立大学 26.7%と 12.1%関東の学生の数値が高い。30 分以内の割合は関東 3.9%、名寄市立大学 5.8%と約 2%名寄市立大学の学生の数値が高いが、直ぐの感覚はほぼ同じであると推考できる。

4) 好きな植物

ヒマワリが好きな学生は関東が 18.7%、名寄市立大学が 16.3%と 2.4%関東の学生の方が高い。名寄のサンピラーパークのヒマワリは映画「星守る犬」にも取り上げられたように有名である。しかし、ヒマワリが好きな学生の数値が低いことは、北海道にはヒマワリだけではなく湧別町のチューリップや春の訪れを示すエゾヤマザクラなど多様な植物の存在があることから、好きな植物はヒマワリやサクラに集約されない多様性の現れと推考できる。

5) 好きな動物

関東の学生のイヌが好き 34.2%、名寄市立大学の学生の 17.4%と約 17%の差がある。ネコが好きな関東の学生の 25.3%、名寄市立大学の学生の 25.6%はほぼ同数である。イヌとネコの合計割合は関東の大学の 59.5%に対し名寄市立大学では 43%と 16.5%の違いがある。森では、キタキツネやアカゲラなどが普通に見られ、海ではラッコやクジラが見られる北海道特有の動物の多様性が現れていると推考できる。

おわりに

このアンケートは、2016 年に関東 3 大学、2017 年に名寄市立大学で行ったものである。好きな動物にハリネズミと答えた学生は、関東 8 人 (13.6%) 名寄市立大学 2 名 (23.3%) と約 10%の違いがある。ハリネズミは近年人気の動物で、東京にはハリネズミと遊べるカフェまである。SNS の画像サイトでも人気急上昇している。もちろんハリネズミは北海道に生息しておらず、身近な動物でもない。このハリネズミに見られる現象は大学の地域特性と考えるより、情報の多様化の影響が大きいのではないかと推考できる。もし、2017 年に関東 3 大学でアンケートを実施したらハリネズミが上位にくるのではないかと予想できる。このように、「好きな動物」や「好きな植物」に関するアンケート結果はブームなど情報環境によって変化するものと推考できる。しかし、「好きな場所」、「将来暮らしたい場所」「直ぐとは」のような内面に潜む個人の好みは短時間で形成されるのではなく、大学生の生活環境が大きく関わってくる推考できる。このアンケート結果が各大学の学生指導の参考になれば幸いである。